

第1回宮崎県沿道修景美化推進検討委員会 議事概要

1 日時

平成27年10月16日（金）午後2時～4時

2 場所

宮崎市中央公民館3階 大研修室

3 出席委員（16名 うち代理出席1名）

委員長 関西 剛康、委員 熊野 稔、委員 渡邊 綱纜
委員 黒田 博司、委員 伊藤 慎一郎、委員 谷越 衣久子
委員 谷口 由美繪、委員 田代 学、委員 川口 道子
委員 久保 幸治、委員 竹林 秀基、委員 福嶋 清美
委員 瀬戸長 秀美、委員 馴松 義昭、委員 森山 福一
委員 安田 宏士（代理出席）

4 議事

- (1) 宮崎県の沿道修景美化のこれまでの取組
- (2) 宮崎県の沿道修景美化の変遷
- (3) 沿道修景美化推進路線の現状と課題
- (4) 修景コンセプトの設定
- (5) 地域ワーキンググループの設置

5 委員からの主な意見等

(1) これまでの取組、変遷、現状と課題について

(委員) 国道10号のパンパスグラスの状況が変わってきているが、それは歩道整備の影響なのか、パンパスグラスの寿命等によるものなのか。また、以前のように育つ可能性はあるのか。

(事務局) 歩道整備に合わせて道路下の斜面に移植しており、通行者からの見え方が変わっている。

(委員) 移植時にパンパスグラスの株を小さくしているので、今後の施肥や維持管理によって元の大きさに戻ると思われる。

- (委員) ポリューム感と連続性がパンパスガラスの魅力であり、中途半端に残すぐらいならやめた方がよい。残すかやめるか、しっかり決めた方がよい。
- (委員長) 安全管理の視点と修景の視点で、矛盾してくる部分をどのように整合させるかが課題である。安全管理を優先した結果魅力が減退したのであれば、技術・テクニクが無いということになる。
- (委員) ハイウェイとバイウェイ（脇道）の使い分けが重要である。交通量や観光地の集客という数字だけで判断すると、バイウェイは消えてしまう。
- (委員長) ハイウェイだと移動時間が短くなるが、沿道修景に触れることがない。このことが宮崎の観光のメリットになるかデメリットになるかを考える必要がある。
- (委員) 沿道住民と協力する「ボランティアサポートプログラム」、沿道の「企業用地との連携」、「高速道路の沿道修景」、宮崎県版とるばのような「視点場の整備」、「沿道景観ビデオを作成し、YouTube等で公開」等が、新たな取組キーワードとして挙げられる。
- (委員) 沿道修景の予算はずっと維持されてきているのか。
- (事務局) およそ前年並みの予算を確保してきているが、労務費や物価の上昇等の影響もあり、予算内で行える作業量としては減少してきている。
- (委員) 新聞の投書欄に、日南海岸沿いの花木の維持管理について懸念している読者の投稿があった。よく目につくところに手が届いていないのが問題である。
- (事務局) 今後開催する地域ワーキンググループの中で、地域や様々な方々との協働、新たな担い手の検討を通して、解決策を探していきたい。
- (委員長) 宮崎の景観の基礎を築いたのが宮崎交通で、その延長に沿道修景美化条例が制定された。昔は行政と宮崎交通とで維持管理の住み分けをしていて、そのころの沿道修景が一番きれいだった。予算と人員の問題がある中で、50年後、100年後の宮崎の景観を維持できるような仕組みを考えていく必要がある。

(委員) ボランティアが活躍できる仕組みを行政側で作ってほしい。

(2) 修景コンセプト(案)の設定について

(委員) ワシントンニアパームの高木化が問題になっているようだが、高くなりすぎたら伐採するのか。

(委員) 国道10号と220号については、国が委員会を立ち上げて、植替えの検討を行っている。

(委員) これだけ立派な高木の並木を植替えてしまうのはもったいない。台風等で倒れたという話も聞かないし、落枝による損害賠償等も、植替え費用に比べれば微々たるものでは。

(委員) 寿命が来ればいつかは倒れてしまう。維持管理ができていいる今の高さのうちに、少しずつ植替えていこうというのが基本的な考え方である。ある程度の高さのまとまりが残る形での植替えを行っていきたい。

(委員) 修景コンセプト案の路線数について、現状の21路線から変わるのか。また、計画の中には、周辺の景観等の道路以外の要素まで含んだものになるのか。

(事務局) 路線数については高速道路のインターチェンジ接続路線が追加になると考えており、総数では増える予定である。道路の周りの景観については、これまでに沿道自然景観地区の指定も行ってきているので、道路以外の領域についても地域ワーキンググループにおける議論などにおいて併せて検討していきたい。

(委員) 推進路線はどのようなプロセスで決めるのか。これまでの取組を踏襲しつつ、南郷のジャカラダなど各地域において新たな魅力づくりに取り組んでいるところでは、それらを生かしたコンセプトとするとよい。

(事務局) 今回提示したコンセプト案をひとつの基本的な考え方として地域ワーキンググループに示し、その中で出た地域ごとの意見を取り入れて修正したものを、委員会の中で示していきたい。

- (委員) 周辺景観を生かした修景は絶対の条件である。
- (委員) コンセプトの設定に際しては、市町村の景観計画における各指定地区も踏まえると良い。
- (委員) 既存の沿道修景指定樹木と沿道自然景観地区をどうしていこうとしているのか。また、コンセプト案の中で「整備」と「維持管理」とで記載を使い分けているが、どう使い分けているのか。
- (事務局) 沿道修景指定樹木と沿道自然景観地区も、これからの見直しの中の重要なポイントとなる。コンセプト案の中の記載の使い分けは、整備とあるところは、これから整備が必要と考えているところで、維持管理とあるところは、今あるものを今後どう維持管理していくかを考えるところとして使い分けている。
- (委員長) ある程度具体的な内容が示されないと、コンセプトについての検討は難しい。今回のコンセプト案は検討のための土台となるもので、細かい部分のチェックは次回の委員会で行うということか。
- (事務局) 今回の委員会の中でも修正意見等をいただいているので、このコンセプト案はたたき台として、基本的な考え方を示したものということで了解いただきたい。
- (委員) 維持管理手法として、3～5年スパンで考えた樹木剪定等により、コストを浮かせ、その分で他の箇所を充実させるという方法もあるので、今後の計画に盛り込むことを期待したい。
- (委員長) 1年ごとではなく、中期的、長期的なサイクルによる管理方法もあるので、今後の検討材料となる。
- (委員) 県観光振興計画の中で、観光地と観光地を結ぶ路線を花や植栽で飾る取組を行うことを考えている。沿道修景とも連携して取り組んでいきたいと考えている。観光目線による、推進路線の重要度設定等についても検討してほしい。
- (委員長) 冬のスポーツキャンプを訪れた人に、花でも楽しんでもらうのが沿道修景の役割。観光ルートも1年の中で移り変わっているはずなの

で、観光地との融合性を考え沿道修景を計画できれば効果的である。

(委員) 道路は観光地間をつないでいる。県庁前の楠並木通り等、道路自体が一つの観光スポットにもなる。観光地間を移動する車から見た沿道修景により、観光地同士がつながっているというイメージにつながる。コンセプトについては、周知のために各路線の特徴や花木等を示したマップ等があると良いと思う。

(委員長) 特徴のある美しい景観等を含め、ルートとして磨き上げるような形で、観光ルートの設定等も検討していくと良い。今回の議事内容について、提示されたコンセプト案等をたたき台として、今後の検討を進めていくということによろしいか。

(異議なし)

(3) 地域ワーキンググループについて

(委員長) 県内を5ブロックに分け、地域ごとのワーキンググループで議論してもらおう。その中で出た意見等を踏まえたものを、委員会で議論をするということによろしいか。

(異議なし)

以 上